

刑事訴訟法

次の【事例】を読み、下記の【設問】(1)～(3)すべてに答えなさい。解答用紙は、表面(30行)のみを使用すること。

【事例】

A 大学構内において、20歳前後の者が数十人で鉄パイプ等を用いた乱闘事件(凶器準備集合および傷害被疑事件。以下「本件」という。)を起こし、これに加担したと思われる者のうち数名は付近の山林を抜けてB市方面へ逃走した。警察官CおよびDは、本件に関する無線連絡を受け、前記逃走方面にある、本件犯行現場から直線距離で約4キロメートル離れた派出所で警戒にあたっていたところ、本件犯行終了後約1時間を経過した頃、小雨の中で傘もささずに着衣を濡らし靴も泥で汚れている様子の甲が同派出所前の道路をB市方面に向けて歩いてくるのを見つけ、Cが職務質問のため停止するよう求めたところ、甲は小走りに逃げ出した。CおよびDはこれを追跡して追いついたが、その際、同人が腕に剣道で使用する籠手を装着しており、顔面には新しい傷痕があつて、血の混じったつばを吐いていたため、同人を本件の被疑者として刑事訴訟法212条2項により逮捕した(以下「本件逮捕」という)。

【設問】

- (1) 下線部の条項による逮捕の適法要件を示しなさい。
- (2) (1)を前提として、本件逮捕の適法性にどのような法解釈上の問題点があるか指摘しなさい。
- (3) 本件逮捕が適法であるとの見解に立ち、(2)で指摘した問題点についてどのような解釈論を展開することができるか示したうえ、(1)で示した要件への【事例】中の事実のあてはめを示しなさい。

(80点)